AMAZING TOYAMA

俳優となって、母に誓った“夢”かなえる。

役者を志した人生の転機。

幼少の頃から、目立ちたいくせに恥ずかしがり屋な性格でした。小学生のとき、学校に旅劇団が来たんです。芝居後にかつらとメークを体験できるということで、メークを施してもらい体育館を1周することに。友人たちから「うっちー、違う人みたい！」と言われたことが、恥ずかしいけどうれしい。そんな気持ちになったことを覚えています。今思うと、これが役者を志すきっかけだったかもしれません。

高校時代は、テニスに明け暮れる毎日でした。本当は弓道をやりたかったのですが、正座が苦手で…。テニスでインターハイに出場し、そのことがきっかけで神戸の大学へ進学しました。大学1年のときに阪神淡路大震災を目の当たりにして「自分は生かされている。1日1日を大切にしたい」と思うようになったんです。同時に「一度きりの人生。やりたいことをやろう」とも考え、演劇の世界に入る決心をしました。

厳しかった「無名塾」時代。

ずっと体育会系の生活を送ってきたので、どうせなら厳しい方がいいと仲代達矢（なかだいたつや）さん主宰の俳優養成所「無名塾」の門をたたきました。厳しい稽古は覚悟していましたが、実際、ここまでキツいとは思いもしませんでした（笑）。ほぼ修行僧のような生活を送る中、3年間で何か一つのことを成し遂げてみようと思い、毎朝5時に稽古場に着くよう心がけていました。これを達成できたことは、少なからず役者としての自信へとつながっています。

▼映画「大コメ騒動」完成披露試写会舞台あいさつ

©2021「大コメ騒動」製作委員会

かなえた夢と、新たな目標。

僕、富山が大好きなんですよ。仕事がない頃から、ずっと富山と関わりのある仕事をしたいと思い続けてきました。上京する前日に母へ「何年後になるか分からんけど、富山の大きなスクリーンの前で絶対、舞台あいさつするから！」と誓ったんです。その夢が、ついに映画「大コメ騒動」の出演でかないました。

本木克英（もときかつひで）監督の作品に出演させていただいたのは今回で5作目となり、人の出会いには恵まれているなと感じています。富山出身の先輩方が多数出演するオール富山のこの作品に出演できたことは本当にうれしいことでした。

また、東京で主演した舞台を、富山でも上演するというもう一つの夢も作品『明日花（あしたばな）』で5年前に実現しました。

次の目標は、全国で公演できるような富山発信の舞台を作ること。富山の新しい文化となれるよう自分が発信源となり頑張っていきたいですね。

内浦純一（うちうら じゅんいち）さん
1975年生まれ。富山市出身。俳優としてテレビや舞台、映画など幅広く活躍する。主な映画の出演作品は「陽はまた昇る」「おかえり、はやぶさ」など。

この連載では、富山で活躍するさまざまな方の「アメイジング（驚くほど素敵）」な富山について掲載します。また、WEBサイトでは皆さんのアメイジングなエピソードも募集しています。
▶詳細は、「アメイジング トヤマ」で検索してください。

▲WEBサイト

広報とやまは環境に配慮し、古紙パルプ配合紙と植物油インキを使用しています。

［問い合わせ］広報課　☎443－2018

広報とやま　令和3年3月5日号
発行　富山市　〒930-8510　富山市新桜町7番38号
編集　企画管理部広報課　☎076(431)6111（代表）
ホームページ　https://www.city.toyama.toyama.jp/
広報とやま、富山市公式Facebook、Twitter、Instagramはこちら→